

防災マニュアル

(学生用)



地震発生時

身の安全を確保する

- ◆机やテーブルの下に身を隠す
- ◆バッグなどで頭を保護する
- ◆テレビ・照明器具・家具・窓・自販機・ブロック塀などから離れる
- ◆ガラスなど落下物に注意
- ◆ドアなど避難口を確保する
- ◆火を消す
- ◆薬品などに注意
- ◆靴を脱がない
- ◆懐中電灯・携帯ラジオを日頃から用意しておく

グラッときたら身の安全

大きな揺れを感じたら、まず身の安全を図り、揺れがおさまるまで様子を見る。



あわてた行動 けがのもと

屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。



門や塀には近寄らない

屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。



窓や戸を開け 出口を確保

小さな揺れのととき又は揺れがおさまったときに、避難できるように出口を確保する。



【大学にいる場合】

本学では「緊急地震速報装置」を設置しています。
推定震度 5 弱以上の地震で稼働し、構内一斉放送でお知らせします。

大学にいる時に災害（地震）があったら、施設内で待機し大学から指示があるまで帰宅しないでください。

「東京都帰宅困難者対策条例第 7 条に基づく」

- ◆教職員の指示に従い安全な場所に避難する（P6 地図参照）
- ◆教職員が名前等を確認するので協力する
- ◆初期消火に協力する
- ◆負傷者の救出・救護に協力する

協力し合って救出・救護

倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。



【大学以外にいる場合】

- ① 自宅（実家）にいる場合は安全な場所に避難する
 - ◆落ち着いたら大学に安否報告をする（P7 参照）
- ② アパート等にいる場合は親などに居場所を知らせ安全な場所に避難する
 - ◆災害伝言ダイヤル「171」を利用する
 - ◆落ち着いたら大学に安否報告をする（P7 参照）
- ③ 登校・下校途中の場合は、直ちに帰宅するなど適切な行動をとる
 - ◆親などに居場所を知らせ安全な場所に避難する
 - ◆災害伝言ダイヤル「171」を利用する
 - ◆落ち着いたら大学に安否報告をする（P7 参照）
- ④ 病院へ行くか？救急車を呼ぶか？迷ったら…
 - ◆救急受診ガイド「#7119」を利用する
- ⑤ エレベーターには乗らない

国からの警戒宣言の発令や大地震(首都直下地震等)があったら

警戒宣言とは、「大規模地震対策特別措置法」に基づき行われる地震予知で、異常が確認された場合、被害を最小限に抑えるために発令される宣言です。

- ①警戒宣言が発令された場合や大地震発生と同時に大学は休講となります
(大学から休講解除の指示があるまでの間)
- ②登校・下校途中の場合は、直ちに帰宅するなど適切な行動をとる
- ③授業・課外活動中など大学内にいる場合は施設内で待機し、大学から指示があるまで帰宅しない
 - ◆教職員の指示に従い安全な場所に避難する
 - ◆教職員が名前等を確認するので協力する
- ④自宅(実家)にいる場合は安全な場所に避難する
- ⑤アパート等にいる場合は親などに居場所を知らせ安全な場所に避難する

正しい情報 確かな行動

ラジオやテレビ、消防署、行政などから正しい情報を得る。



普段からの心構え

- ①普段からあらゆる場面を想定しておきましょう
 - ◆災害時に冷静に対応できるように
- ②避難路・避難場所・避難具・消火器を確認しておきましょう
 - ◆教室で、図書館で、学生ホールで、学食で、通学途中で、などなど…
- ③帰宅経路を確認しておきましょう
 - ◆警戒宣言発令や大地震発生の場合、交通機関は運行中止となることがあります
- ④自宅(実家)への連絡方法も確認しておきましょう
 - ◆災害時は災害用伝言サービスが利用できます(P4参照)



災害用伝言ダイヤル情報

災害用伝言ダイヤルは地震、噴火などの災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板です。

利用できる電話

災害用伝言ダイヤルの伝言登録、再生の利用可能な電話は一般電話（プッシュ回線、ダイヤル回線とも）、公衆電話、ひかり電話（電話サービス）並びに、災害時、NTTが避難場所などに設置する特設公衆電話から利用できます。携帯電話からも利用できます。

利用方法

171をダイヤルし、利用ガイダンスに従って伝言の録音・再生を行って下さい。



災害用伝言板

地震など大規模な災害が発生した場合に開設されます。ご自身の持つ携帯電話会社の災害用伝言板へアクセスし、安否情報を登録することができます。登録されたメッセージは、インターネットを通じて携帯電話やPC等から確認することができます。

利用方法は携帯電話会社によって異なるため、事前に自分の使用している携帯電話会社の利用方法を確認しておくことをお勧めします。



Jアラート(弾道ミサイル発射)作動時の対応について

弾道ミサイルは、発射からわずか10分もしないうちに到達する可能性もあります。ミサイルが日本に落下する可能性がある場合は、国からの緊急情報を瞬時に伝える「Jアラート」を活用して、防災行政無線で特別なサイレン音とともにメッセージを流すほか、緊急速報メール等により緊急情報をお知らせします。

① 速やかな避難行動

② 正確かつ迅速な情報収集

行政からの指示に従って、**落ち着いて行動してください。**

Jアラート

(例) 直ちに避難。直ちに避難。直ちに建物の中、または地下に避難してください。ミサイルが落下する可能性があります。直ちに避難してください。

メッセージが流れたら

落ち着いて、直ちに行動してください。

屋外に
いる場合

近くの建物の中か地下に避難。

(注) できれば頑丈な建物が望ましいものの、近くなければ、それ以外の建物でも構いません。

建物が
ない場合

**物陰に身を隠すか、
地面に伏せて頭部を守る。**

屋内に
いる場合

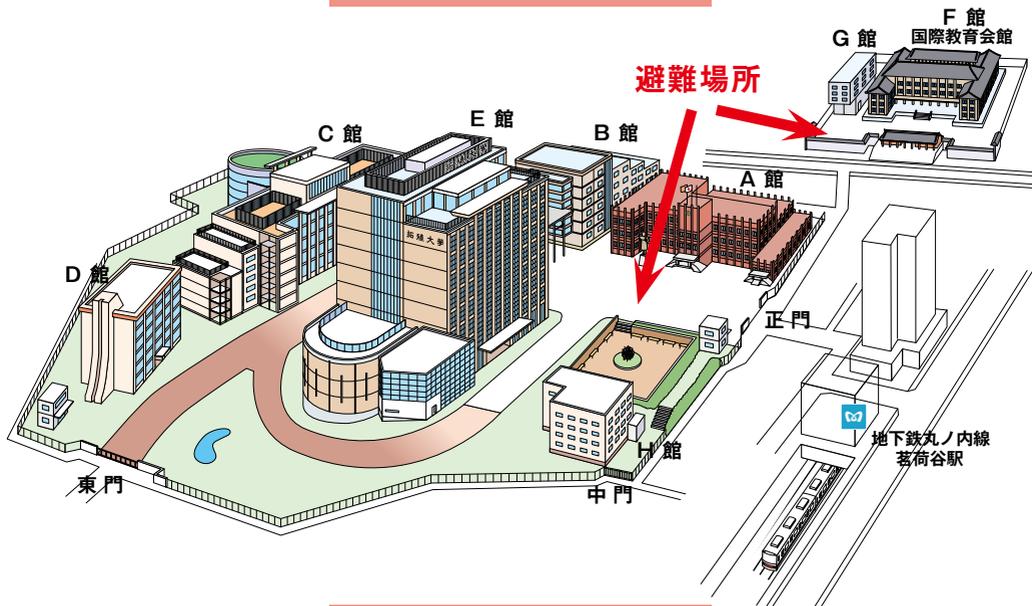
**窓から離れるか、
窓のない部屋に移動する。**

近くに
ミサイル
落下!

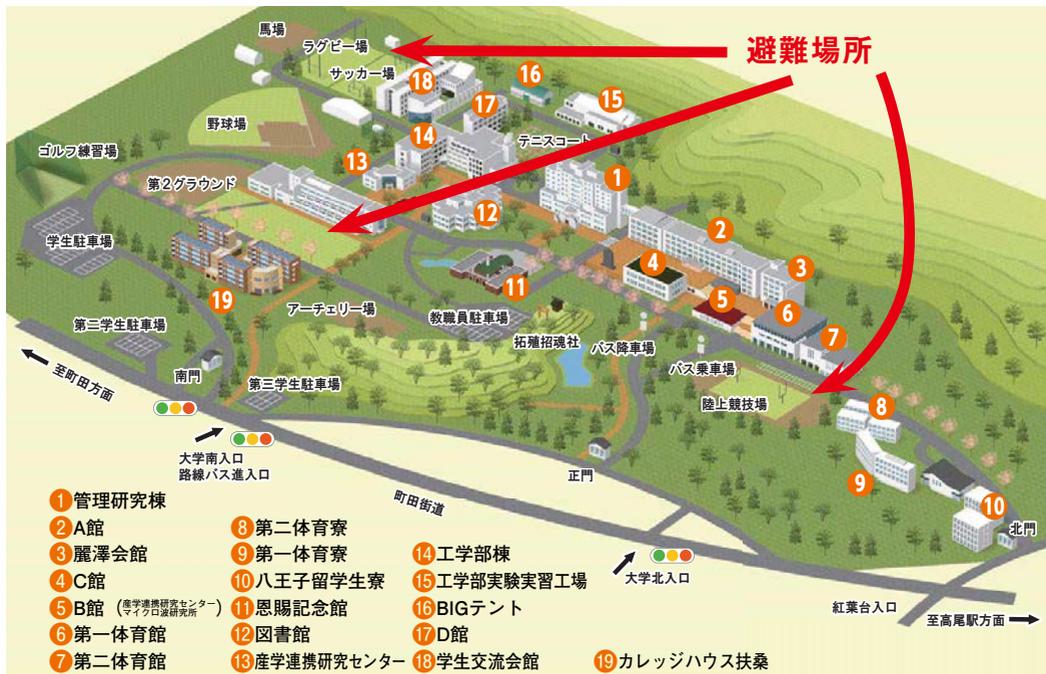
- 屋外にいる場合：口と鼻をハンカチで覆い、現場から直ちに離れ、密閉性の高い屋内または風上へ避難する。
- 屋内にいる場合：換気扇を止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉する。

避難場所

文京キャンパス



八王子国際キャンパス



- ① 管理研究棟
- ② A館
- ③ 麗澤会館
- ④ C館
- ⑤ B館 (医学連携研究センター (マイトラボ) 研究棟)
- ⑥ 第一体育館
- ⑦ 第二体育館
- ⑧ 第二体育寮
- ⑨ 第一体育寮
- ⑩ 八王子留学生寮
- ⑪ 恩賜記念館
- ⑫ 図書館
- ⑬ 産学連携研究センター
- ⑭ 工学部棟
- ⑮ 工学部実験実習工場
- ⑯ BIGテント
- ⑰ D館
- ⑱ 学生交流会館
- ⑲ カレッジハウス扶桑

※八王子国際キャンパスは、八王子市の広域避難場所として指定されています。
 災害時には学生の皆さんの積極的なボランティア協力(共助)をお願いします。

大学に安否報告

～状況が落ち着いたなら、大学へ安否を報告してください～

〈安否メールの送信〉

- 送信先: anpi@ofc.takushoku-u.ac.jp
- 表題: 「拓大安否報告(学生番号・氏名)」
- 記載事項: 1. 学生番号



安否メールQRコード

- 2. 氏名
- 3. 本人被災の状況
 - a 無事 b 軽傷 c 重傷等
- 4. 所在情報
 - ア 学内 イ 自宅 ウ その他(外出中、帰省・旅行中等)
 - (その他の場合は、現在地をお知らせください。変更した場合は、その都度お知らせください)
- 5. その他、情報等(本学の友人情報が分かれば記載してください)

※大学からメールやホームページ等を通じて指示があった場合は、速やかに安否メールを送信してください。または、震度6弱以上の地震に見舞われた場合は、大学からの指示を待たず、速やかに安否メールを送信してください。

※メールが使用できない場合は、葉書にて報告してください。

(安否メールと同じ記載事項を記入してください)

〈宛先〉〒112-8585 東京都文京区小日向3-4-14 拓殖大学 学生支援室

◎御自宅の方へも必ず安否報告をしましょう 学生支援室

新型コロナウイルス感染症の対応について

拓殖大学における「新型コロナウイルス感染症」の対応は、本学ホームページ「新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン」をご覧ください。

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、飲量が過剰し、大きな声になりやすい。
- 特に数人で密で居られる狭い空間に、長時間、大人数が居ると、感染リスクが高まる。
- また、同じ飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長期間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のほしご飯では、短時間の食事と比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり声帯が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話することで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、壁カラボケなどでの会話が発見されている。
- 車やバスで移動する際の車中にも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の個室やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の流れや環境の変化により、感染リスクが高まることがある。
- 休室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



拓殖大学
新型コロナウイルス
感染症予防
ガイドライン
QRコード

〔内閣官房HPより引用〕

「防災マニュアル」 2021年4月発行(第12版)

発行者: 拓殖大学総務部総務課 電話: 03(3947)7111

協力: 東京消防庁小石川署 挿絵等は、東京消防庁HPより抜粋させていただきました。

印刷: 忠栄印刷株式会社